

2008年度 第2四半期連結決算及び通期見通し (米国基準)

【主要指標推移】	2008年度 第2四半期	2007年度 第2四半期	増減	
油価 (USD/BBL)	115.1	67.4	+47.7	(71%の上昇)
為替 (YEN/USD)	106.1	119.4	▲13.3	(11%の円高)
金利 (%)TIBOR	0.65	0.73	+0.12	(16%の上昇)

損益の状況	2007年度 第2四半期実績 (リステート後)	2007年度 通期実績 (リステート後)	2008年度第2四半期実績 前年同期比	2008年度通期見通し 達成率
(単位:億円)				
売上高 〔期初見通し比〕	110,550	231,030	131,806 21,256	250,000 [-]
売上総利益 〔期初見通し比〕	5,884	11,722	7,575 1,689 (+29%)	15,700 ▲800
販売費及び一般管理費	▲4,007	▲8,210	▲4,394 ▲387	▲9,300 47%
貸倒引当金繰入額	2	39	▲54 ▲56	▲100 54%
営業利益 〔期初見通し比〕	1,879	3,551	3,125 1,246 (+66%)	6,300 ▲550
利息(受取利息差引後)	▲49	▲123	▲88 ▲39	▲300 29%
受取配当金	688	1,346	828 140	1,350 61%
有価証券損益	392	574	▲197 ▲589	▲300
固定資産損益	2	▲59	▲64 ▲66	▲600 18%
その他の損益	90	236	154 64	▲600
継続事業からの 税引前利益 〔期初見通し比〕	3,002	5,525	3,758 756 (+25%)	6,750 ▲1,100
法人税等	▲1,012	▲1,817	▲1,497 ▲485	▲2,800 53%
少数株主持分	▲262	▲513	▲276 ▲14	▲550 50%
持分法による投資損益	742	1,550	920 178	1,800 51%
継続事業からの 当期純利益 〔期初見通し比〕	2,470	4,745	2,905 435 (+18%)	5,200 ▲600
非継続事業に係る損益	1	▲36	▲13 ▲14	-
当期純利益 〔期初見通し比〕	2,471	4,709	2,892 421 (+17%)	5,200 ▲600
基礎収益(*1) 〔期初見通し比〕	3,258	6,285	4,839 1,581 (+49%)	9,250 ▲750

(*1) 基礎収益 = 営業利益(貸倒引当金繰入額控除前) + 利息収支 + 受取配当金 + 持分法による投資損益
 (*2) 売上高及び営業利益については、日本の投資家の便宜を考慮して、日本の会計慣行に従い表示しております。
 なお、日F第99-19号に従って収益を表示すると、2008年度第2四半期は3兆6,662億円、2007年度第2四半期は2兆8,000億円となります。
 (*3) 米国会計基準の規定に準じ、2007年度第2四半期実績、及び通期実績を修正再表示しております。

資産と負債の状況	2007年9月末 (リステート後)	2008年3月末 (リステート後)	2008年9月末 前年末比	2009年3月末見通し 第2四半期末比
総資産	122,805	117,504	125,852 8,348	128,500 2,648
(流動資産)	62,644	60,914	67,549 6,635	68,000 451
(投資及び長期債権)	40,749	37,057	36,477 ▲580	38,500 2,023
(有形固定資産ほか)	19,412	19,533	21,826 2,293	22,000 174
株主資本	31,159	28,735	28,805 70	28,000 ▲805
有利子負債 GROSS (*4)	43,676	41,836	48,263 6,427	50,000 1,737
NET (*4)	33,978	34,219	37,876 3,657	39,000 1,124
有利子負債倍率 GROSS	(1.4倍)	(1.5倍)	(1.7倍) (0.2倍)	(1.8倍) (0.1倍)
NET	(1.1倍)	(1.2倍)	(1.3倍) (0.1倍)	(1.4倍) (0.1倍)

(*4) 有利子負債には「FAS133適用による影響額」を含めておりません。

キャッシュフローの状況	2007年度 第2四半期実績 (リステート後)	2007年度 通期実績 (リステート後)	2008年度 第2四半期実績
営業活動によるCF	440	3,191	673
投資活動によるCF	▲829	▲3,567	▲3,692
フリーキャッシュフロー	▲389	▲376	▲3,019
財務活動によるCF	2,485	695	5,913
現金及び現金同等物の増減	2,078	▲36	2,779

商品市況の上昇により運転資金が増加したものの、資源関連投資先からの配当収入や営業収入が堅調に推移したことにより資金増
 …… 資源関連投資やプラント事業・リース事業への投資実行により資金減
 …… 運転資金の需要増加や金融不安に備えて調達を増加

2008年度第2四半期決算の概要

【概要】

① 当期純利益が5年連続で過去最高益を更新
 原料炭価格の上昇に加え、その他の商品市況も堅調に推移したこと、及び新規連結の影響などにより、売上総利益は前年同期比29%の増益となった。
 持分法による投資損益(同24%増)といった本業のうけを示す損益項目で増益となり、この結果、当期純利益は5年連続で過去最高益となる2,892億円(同17%増)となった。
 また、営業利益や基礎収益も過去最高益を更新した。

② 「金属」「エネルギー事業」セグメントで大幅増益
 原料炭価格の上昇などの影響で「金属」が前年同期比87%の大幅増益となったほか、「エネルギー事業」も原油価格上昇などの影響で同14%の2桁増益となった。

③ 株主資本は増ばい
 利益の積み上がりによる内部留保の増加があったものの、市況変動による包括損益の減少により株主資本の金額は前年度末比横ばいとなった。一方、有利子負債は、運転資金需要増や金融不安に備えた調達を進めたことから、前年度末比で増加したが、有利子負債倍率(ネット)は1.3倍と健全性を維持している。

2008年度第2四半期決算 主な増減内容 (前年同期比)

a. 売上総利益(+1,689)
 原料炭価格の上昇に加え、その他の商品市況も堅調に推移したこと、及び新規連結の影響などにより、売上総利益は前年同期比29%の増益となった。

b. 販売費及び一般管理費(▲387)
 新規連結の影響などにより販管費は負担増となった。

c. 金融収支(+101)
 資源関連の受取配当金が増加したことから、金融収支は改善した。

d. 有価証券損益(▲589)
 ① 上場有価証券評価損 …… ▲154 [▲155←▲1]
 ② 不良資産償却関連損失 …… ▲150 [▲167←▲17]
 ③ その他株式売却損益等 …… ▲285 [+125←+410]

e. 固定資産損益(▲66)
 海外子会社における固定資産の減損などにより、固定資産損益は悪化した。

f. その他の損益(+64)
 為替関連損益の改善等により、その他の損益は改善した。

g. 持分法による投資損益(+178)
 海外の資源関連会社の業績が堅調に推移したことにより、持分法による投資損益は増加した。

2008年度業績見通し及び配当方針

【概要】

世界的に広がる金融危機の影響により、上場有価証券等の評価損の増加、並びに商品市況の下落や円高の進行等による収益悪化が見込まれることから、2008年度通期連結純利益見通しを5,200億円と、期初公表の5,800億円より600億円下方修正するが、前年度比では10%の増益(6年連続で最高益を更新)を確保する。

【配当方針】

通期業績見通しを5,200億円に下方修正することから、中期経営計画 INNOVATION2009の配当方針である連結配当性向20%に基づき、この見通し通りとなる場合には、年間配当予想額は64円とする予定。
 また、中間配当については、第2四半期当期純利益が当初の見通しである5,800億円のほぼ50%である2,892億円を達成したことから、期初に公表した36円の配当を実施する。

(注意事項)
 本資料における業績予想や将来の予測に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき合理的と判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性その他の要因が内容に含まれており、従って、実際の業績は、見通しと大きく異なる結果となる可能性があります。

セグメント情報

セグメント別当期純利益の推移

【主な増減】

イノベーション事業…ICT(情報・通信)関連子会社の統合による税負担増、取引低調による利益減少ほか
 新産業金融事業…前年度における三菱UFJリース株式みなし売却益の反動減、及びファンド投資関連収益の減少
 エネルギー事業…原油価格上昇による海外資源関連投資先の持分利益及び受取配当金の増加
 金属…資源価格上昇による取引利益や配当収入による利益増加
 機械…固定資産減損、海外自動車事業での販売減少、及び欧州自動車関連会社の売却による持分利益減少の影響ほか
 化学…親会社における汎用化学品の取引好調により利益が増加したものの、前年同期に計上した石化事業関連会社の持分上昇による税メリットの反動減により利益減少
 生活産業…株式評価損による利益減少、前年度株式売却益の反動減